

||| ||| ||| ||| ||| ||| ||| |||

概 要

||| ||| ||| ||| ||| ||| ||| |||

位 置 と 概 要



当消防本部は、茨城県の南東部、千葉県に接する位置にあり、首都東京から 70~90 k m 圏、県都水戸市から 15~50 k m 圏内にあって、太平洋に面する鉾田市、霞ヶ浦と北浦に挟まれた潮来市及び行方市を管内としており、面積は 501.97 k m²で、現在この管内を 1 本部 3 署 4 出張所で管轄している。

地勢は概ね平坦で、標高は 30~40m 程度であり、台地には畑地が広がり霞ヶ浦、北浦の沿岸には水田が広がる純農村地帯である。

また、管内には「鉾田海水浴場」をはじめとする多くの海水浴場と、「あやめ」で有名な水郷潮来があり、美しい自然環境に恵まれた気候温暖な地域である。



消防本部・鉾田消防署



玉造出張所



行方消防署



麻生出張所



〔消防本部の位置〕

東経 140° 31' 54"

北緯 36° 9' 54"



旭出張所



大洋出張所



潮来消防署

構 成 市 の 紹 介

いたこ 来 市



丸は円満・充足そして絶えずやすみなく向上するサイクルを表わし、中央に水郷のシンボルである水の流れて恒久の繁栄を願望し、全体として「いたこ」の「い」を図案化したものです。

役所所在地 〒311-2493 潮来市辻 6 2 6
☎ 0 2 9 9 - 6 3 - 1 1 1 1 FAX 0 2 9 9 - 8 0 - 1 1 0 0

《沿革》

平成 1 3 年 4 月 1 日 合併・市制施行
潮来町・牛堀町

《基本構想のテーマ・理念等》

水辺などの自然を生かし、さまざまなふれあいのある、住民が豊かさを実感できるまち

《市の花・木・鳥》

花：あやめ 木：ポプラ 鳥：よしきり

《特産物》

すずめ焼・てっぼう漬け・あやめ・まこも
川魚料理

《観光地・史跡等》

長勝寺・鹿見塚古墳・権現山公園・島崎城址
あやめまつり・潮来祇園祭・上戸の獅子舞



《嫁入り舟》

利根川水運の中心のまち・潮来は、水郷観光の拠点でもあります。その潮来の一大イベントが5月下旬から6月下旬までに開催される「あやめまつり」です。

「あやめまつり」の期間中、あやめ園沿いに流れる前川で運航される嫁入り舟は、水郷情緒豊かな美しい風景です。

《地勢・風土等》

潮来市は、茨城県南東部に位置し、北側は行方市、南側は神栖市、東側は鹿嶋市、西側は千葉県香取市に隣接している。

面積は71.41㎢で、北部には行方台地が南北に続き、東部は北浦、西部は霞ヶ浦と常陸利根川、南部は外浪逆浦というように水辺に囲まれた自然豊かな地域である。

江戸時代には水運の拠点として繁栄し、文人墨客が訪れるなど多くの人たちの盛んな交流の中で独自の歴史や文化を育んできた。また、豊かな自然を背景に水郷筑波国定公園の一部として指定され、観光地として全国的にも知られている。

このような中で、長い歴史と文化を有し、豊かな水辺などの自然に囲まれて生れた潮来市では、住んで、遊んで、働いて、交流する活気に満ちたまちづくりを実現するとともに、「住民と自然」「住民と交流者」というような多様な交流を活発化の手段として大切にし、まちづくりを進めている。

なめ がた し
行 方 市



行方市の「N」と帆引き船の帆をモチーフとした市章です。

3つの帆は、麻生町・北浦町・玉造町を表しています。それぞれの色は、赤『降りそそぐ太陽』、青『霞ヶ浦・北浦』、黄緑『豊かな自然』をイメージしています。行方市の発展と飛躍を表現しています。

役所所在地 〒311-3832 行方市麻生1561-9

☎ 0299-72-0811 FAX 0299-72-2174

《沿革》

平成17年9月2日 合併
麻生町・北浦町・玉造町

《特産物》

さつまいも・レンコン・トマト・いちご
佃煮 ミツバ・せり・チンゲンサイ・水菜
シュンギク・エシャレット・わさび菜

《観光地・史跡等》

麻生藩家老屋敷記念館・北浦大橋(サンブリッジ)
天王崎(茨城百景のひとつ)・小高のカヤ(県指定天然記念物)・熊野神社本殿(県指定文化財)・西蓮寺仁王門(国指定重要文化財)・西蓮寺相輪櫓(国指定重要文化財)・西蓮寺大イチョウ(県指定天然記念物)・大場家住宅(県指定文化財)・万福寺仁王門(県指定文化財)・万福寺阿弥陀堂(県指定文化財)・法眼寺・三味塚古墳農村公園(市指定文化財)・観音寺・化蘇沼稻荷神社

《伝統芸能》

馬だし祭り(八坂神社祭礼)
どぶろく祭り(春日神社例祭)
西蓮寺花祭り
西蓮寺常行三昧「仏立て」
大宮神社祭礼
羽生祇園祭
化蘇沼稻荷神社祭礼
山田祇園祭



《霞ヶ浦ふれあいランド 虹の塔》

霞ヶ浦大橋のたもとにそびえる玉造・虹の塔。

遠くからでも見える霞ヶ浦ふれあいランドのシンボルです。高さは約60メートル、展望台に上がれば360度の大パノラマが広がります。ふれあいランド内には水の科学館、親水公園なども併設され霞ヶ浦の水、霞ヶ浦開発について紹介されており、休日にはたくさんの親子連れなどで賑わいます。

《地勢・風土等》

茨城県の東南部に位置し、東京都心から約70km、県都水戸市から約40kmの距離にあります。面積は222.38km²で、東西約12km、南北約24kmの形状となっており、北は鉾田市と小美玉市、南は潮来市に隣接し、東は北浦、西は霞ヶ浦(西浦)に面しています。内陸部は標高30m前後の行方大地により形成されており、霞ヶ浦沿岸部は概ねなだらかで連続的な稜線であるのに対し、北浦沿岸部は比較的起伏に富んでいます。

ほこ た し
銚 田 市



朝日が昇る様子をモチーフに、人と豊かな自然環境の調和を図り、街が大きく発展していく様子を表し、波型は「人と自然の調和」を表現しています。

役所所在地 〒311-1592 銚田市銚田1444-1

☎ 0291-33-2111 FAX 0291-32-4443

《沿革》

平成17年10月11日 合併・市制施行
銚田町・旭村・大洋村

《基本構想のテーマ・理念等》

『「いのち」と「暮らし」の先進都市』

《市の花・木・鳥》

花：ヒマワリ 木：サクラ
鳥：ウグイス

《特産物》

メロン・かんしょ・みず菜・ごぼう
トマト・イチゴ

《観光地・史跡等》

鹿島灘海浜公園
厳島神社（子生弁財天）
大蔵山福泉寺（釈迦如来立像）
無量寿寺



《銚田ブランド》

銚田市の農産物は、全国トップクラスの産出額を誇っています。

平成18年度統計では、メロン・かんしょ・みず菜・ごぼうが全国1位、トマト・いちごなど9品目が県内1位です。現在、市では、農業及び商工業の発展を図るため、農産物を中心とする地域資源を「銚田ブランド」として全国へ発信しています。

《地勢・風土等》

銚田市は、首都東京から約90kmの茨城県東南部に位置し、北浦と涸沼に接しており、水と緑に囲まれ豊かな自然の恵みを受けている。北は茨城町、大洗町、南は鹿嶋市、東は鹿島灘、西は行方市、小美玉市に接し、その内陸部のほとんどは平坦地となっている。この平坦な地形と2つの湖に流入する河川に沿って水田や湿地帯が広がっており、台地部は良質な土壌で農産物を生産するのに適した肥沃な農業用地となっている。

基幹産業は温かな気候を活かした農業であり、主に施設園芸作物を中心に栽培しており、首都圏全体の食料供給を担う地域として、また、メロンやイチゴ、トマト、かんしょといった全国有数の生産地としても知られています。

人 口 ・ 世 帯 数 及 び 面 積

(平成25年4月1日現在)

区 分		人 口 (人)			世 帯 数 (世帯)	面 積 (k m ²)
		合 計	男	女		
鉾田消防署	鉾 田 市	51, 778	26, 256	25, 522	19, 255	208.18
潮来消防署	潮 来 市	29, 637	14, 707	14, 930	10, 823	71.41
行方消防署	行 方 市	37, 114	18, 411	18, 703	11, 691	222.38
総 合 計		118, 529	59, 374	59, 155	41, 769	501.97

最 近 5 年 間 の 広 域 圏 内 の 推 移

(各年 4 月 1 日現在)

区 分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
人 口	121,734	120,824	119,494	117, 911	118, 529
世 帯 数	39,254	39,598	39,697	39, 842	41, 769

鹿 行 消 防 力 一 覧 表

消 防 本 部 の 現 有 勢 力

(平成25年4月1日現在)

区 分	消 防 本 部	消 防 署	出 張 所	職 員 数	ポ ン 槽 付 自 動 消 車防	ポ ン 槽 付 自 動 消 車防	自 消 防 動 ポ ン 車プ	救 急 自 動 車	指 揮 自 動 車	消 防 広 報 車	資 機 材 搬 送 車	救 助 艇	救 命 ボ ー ト
合 計	1	3	4	209	5	2	5	9	5	10	1	1	1
消 防 本 部	1			41					2	2			
銚 田 消 防 署		1		40		1	2	2(1)	1	1			
旭 出 張 所			1	12	1			1(1)		1			
大 洋 出 張 所			1	12	1			1(1)		1			
潮 来 消 防 署		1		41	1		1	2(1)	1	2		1	
行 方 消 防 署		1		39	1		2	1(1)	1	1	1		1
麻 生 出 張 所			1	12	1			1(1)		1			
玉 造 出 張 所			1	12		1		1(1)		1			

※ () 内の数字は内数であり、高規格救急自動車の台数を示す。

※ 職員数に行政職員2人を含む。

消 防 団 の 現 有 勢 力

(平成25年4月1日現在)

区 分	消 防 団	消 防 分 団	消 防 団 員	ポ ン 槽 付 自 動 消 車防	自 消 防 動 ポ ン 車プ	積 小 型 動 力 ボ ン プ 車付	消 防 広 報 車
合 計	3	109	3,302	17	55	127	7
潮 来 市	1	13	607	6	15	19	1
行 方 市	1	14	1,326	6	7	60	3
銚 田 市	1	82	1,369	5	33	48	3

鹿 行 広 域 消 防 の あ ゆ み

昭和47年	4月	鹿行地方広域市町村圏事務組合発足する。
	12月	鹿行非常備8か町村において山梨県の組合消防を視察
昭和48年	1月	管理者会において組合消防実施を決定する。
昭和49年	6月	常設消防研究部会発足する。
昭和50年	2月	消防本部・消防署開設準備室発足する。
	3月	地方自治法第284条による一部事務組合解散する。
	4月	地方自治法第285条による複合事務組合発足する。
	4月	鹿島郡北部3か町村（旭村・鉾田町・大洋村）、行方郡5か町村（麻生町・牛堀町・潮来町・北浦村・玉造町）をもって消防本部、消防署発足する。 （職員定数142名・実員79名） 初代消防長（事務取扱）に管理者飯島久就任する。
	4月	鉾田町中央公民館内に本部事務所を仮設し、消防事務を開始する。
	4月	職員1名退職
	5月	各消防署の事務所を下記に仮設し、消防事業を開始する。 鹿島北部消防署（鉾田町中央公民館内） 行方南部消防署（旧潮来食糧事務所内） 行方北部消防署（麻生町公民館内）
	5月	初代消防本部次長に永峯剛次就任する。
	6月	職員1名採用
	6月	消防本部・消防署に車両配備する。 消 防 本 部 指令車 1 台 鹿島北部消防署 指令車 1 台 救急車 2 台 行方南部消防署 指令車 1 台 救急車 1 台 行方北部消防署 指令車 1 台 救急車 1 台
	6月	社団法人日本船舶振興会から救急車1台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	7月	各消防署に119専用電話を架設し、救急業務を開始する。
	7月	職員2名採用
	9月	水槽付消防ポンプ自動車3台を購入し、各消防署に配置する。
	10月	各消防署災害活動事業を開始する。
	10月	小型動力消防ポンプ3台を購入し、各水槽付消防ポンプ自動車に積載する。
	11月	消防本部・消防署新庁舎起工式を合同で行う。
	12月	無線局開局（基地局3、移動局11）
昭和51年	4月	職員9名採用

	4月	消防本部、鹿島北部消防署銚田町中央公民館から仮庁舎（銚田町役場敷地内）へ移転する。
	5月	職員1名採用
	5月	行方北部消防署新庁舎へ移転する。
	5月	消防本部、鹿島北部消防署新庁舎へ移転する。
	6月	組織の整備により消防本部課制施行
	6月	職員48名採用
	6月	職員1名採用
	6月	広報車1台を購入し、消防本部に配置する。
	7月	職員1名採用
	8月	新庁舎の合同落成式を行う。
	9月	行方南部消防署新庁舎へ移転する。
	9月	初代消防長（事務取扱）管理者飯島久退任する。
	9月	第2代消防長（事務取扱）管理者井川茂芳就任する。
	10月	職員1名採用
	11月	消防ポンプ自動車3台を購入し、各消防署に配置する。
昭和52年	3月	職員3名退職
	5月	第2代消防本部次長に飯島勝寿就任する。
	6月	広報車3台を購入し、各消防署に配置する。
昭和53年	1月	第1回鹿行広域消防本部出初式を挙げる。
	3月	社団法人日本自動車工業会から救急車1台が寄贈され、行方北部消防署に配置する。
	4月	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	6月	職員1名退職
	6月	職員1名採用
	10月	鹿行地方広域市町村圏事務組合消防本部特別救助隊発足する。
	12月	消防ポンプ自動車3台を購入し、各消防署に配置する。
昭和54年	2月	第2代消防長（事務取扱）管理者井川茂芳退任する。
	2月	第3代消防長飯島勝寿就任する。
	3月	鹿島北部消防署、行方北部消防署の第2車庫を建設する。
	8月	第3代消防本部次長に高品喜代志就任する。
	9月	職員2名採用
	11月	指揮車1台を購入し、消防本部に配置する。
昭和55年	6月	救急自動車1台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
昭和57年	6月	第3代消防長飯島勝寿退職する。
	6月	第4代消防長（事務取扱）管理者塙晟就任する。
昭和58年	3月	職員1名退職
	5月	第4代消防長（事務取扱）管理者塙晟退任する。

昭和59年	6月	第5代消防長白井叶就任する。
	6月	広報車1台更新、消防本部に配置する。
	12月	救急自動車1台を更新し、行方南部消防署に配置する。
	12月	職員2名退職
	3月	社団法人日本損害保険協会から救急車1台が寄贈され、行方北部消防署に配置する。
	4月	職員4名採用
	4月	職員1名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	4月	4週5休制度実施される。
	4月	茨城県防災行政無線電話稼動
昭和60年	5月	消防規程集を発行する。
	2月	指令車1台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	3月	社団法人日本損害保険協会から救急車1台が寄贈され、鹿島北部消防署に配置する。
	3月	第3代消防本部次長高品喜代志退職する。
	5月	指令車1台を更新し、行方北部消防署に配置する。
昭和61年	1月	指令車2台を更新し、消防本部、行方南部消防署に配置する。
	1月	職員1名退職
	3月	救急自動車1台を更新し、行方南部消防署に配置する。
	4月	職員1名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	6月	広報車3台を更新し、鹿島北部消防署、行方南部消防署、行方北部消防署に配置する。
	8月	社団法人日本損害保険協会との共催により防災講演会を実施する。
昭和62年	3月	第5代消防長白井叶退職する。
	4月	第6代消防長高野登就任する。
	4月	第4代消防本部次長小林廣就任する。
	8月	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	9月	昭和50年に行方北部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を牛堀町に払い下げる。
	9月	救急講演会を開催する。
	10月	第3回全国婦人消防操法大会（横浜市）に北浦村長野江婦人防火クラブが出場する。
	11月	東関東自動車道潮来佐原インター区間の救急業務を開始する。
	2月	救急自動車1台を更新し、行方北部消防署に配置する。
昭和63年	3月	化学消防ポンプ自動車1台を購入し、鹿島北部消防署に配置する。
	3月	4週6休制試行される。
	3月	第4代消防本部次長小林廣退職する。
	4月	職員定数146名となる。

	4月	職員8名採用
	4月	第5代消防本部次長野島清司就任する。
	4月	職員1名鹿行広域事務局へ出向
		職員1名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
		職員1名鹿行広域事務局から転入
	7月	昭和50年に鹿島北部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を旭村に払い下げる。
	9月	救急講演会を開催する。
平成 元年	3月	社団法人日本自動車工業会から救急自動車1台が寄贈され、鹿島北部消防署に配置する。
平成 2年	2月	職員1名退職
	3月	化学消防自動車1台を購入し、行方北部消防署に配置する。
	4月	職員1名鹿行広域事務局へ出向
		職員1名鹿行広域事務局から転入
	4月	第2・第4土曜閉庁制度実施される。
	4月	消防本部及び消防署の組織の一部を改正する。
	5月	水難救助用救命ボート1艇を購入し、行方北部消防署に配置する。
	6月	昭和50年に行方南部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を潮来町に払い下げる。
	8月	「第5回茨城県幼年少年婦人防火大会」鉾田町総合公園体育館で開催される。
平成 3年	1月	職員1名退職
	3月	消防ポンプ自動車1台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	3月	職員1名退職
	3月	第6代消防長高野登退職する。
	4月	第7代消防長土子貞男就任する。(鹿行広域事務局から転入)
	4月	第5代消防本部次長野島清司鹿行広域事務局へ出向
	4月	第6代消防本部次長岡崎一郎就任する。
	4月	消防署の組織の一部を改正する。
	4月	職員4名採用
	4月	初代消防本部次長永峯剛次勲五等瑞宝章を受章する。
	5月	水難救助艇1艇を購入し、行方南部消防署に配置する。
	6月	財団法人日本防火協会から防火広報車1台が寄贈され、消防本部に配置する。
	11月	指揮車1台を更新し、消防本部に配置する。
	12月	ひとり暮らし老人等緊急通報システム稼動
平成 4年	3月	消防ポンプ自動車1台を更新し、行方北部消防署に配置する。
	3月	第6代消防本部次長岡崎一郎退職する。
	4月	職員2名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向

平成 5 年	4 月	職員 4 名採用
	7 月	鹿島北部消防署救助隊、第 2 1 回消防救助技術関東地区指導会（会場千葉市）へ出場
	9 月	資機材運搬車 1 台を購入し、行方北部消防署に配置する。
	1 2 月	土曜閉庁制度実施される。
	1 2 月	隔日勤務者の週 4 2 時間勤務態勢実施する。
	1 2 月	救急自動車心電図伝送システム稼動（救急車 3 台）
	3 月	消防ポンプ自動車 1 台を更新し、行方北部消防署と行方南部消防署に配置する。
	4 月	職員定員 1 5 0 名となる。
	4 月	職員 4 名採用
	4 月	昭和 5 9 年に行方北部消防署に配置した救急自動車 1 台を麻生町ライオンズクラブに寄贈する。
平成 6 年	7 月	鹿島北部消防署救助隊、第 2 2 回消防救助技術関東地区指導会（会場横浜市）へ出場
	1 1 月	広報車 1 台を更新し、消防本部に配置する。
	3 月	救急自動車 1 台を更新し、行方南部消防署に配置する
	3 月	消防ポンプ自動車 1 台を更新し、行方北部消防署に配置する。
	3 月	消防無線基地局更新（鹿島北部消防署）
	4 月	隔日勤務者の週 4 0 時間勤務態勢実施する。
	4 月	救急救命士誕生
	7 月	鹿島北部消防署救助隊、第 2 3 回消防救助技術関東地区指導会（会場大宮市）へ出場（入賞）
	1 月	防災航空隊派遣職員研修開始
	2 月	消防無線基地局更新（行方南部消防署）
平成 7 年	3 月	高規格救急自動車 1 台を購入し、鹿島北部消防署に配置する。
	4 月	防災航空隊へ職員 1 名派遣
	7 月	第 4 回全国消防長会組合消防委員会関東支部委員会を開催する。
	7 月	救急自動車 1 台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	7 月	鹿島北部消防署救助隊及び行方北部消防署救助隊、第 2 4 回消防救助技術関東地区指導会（会場厚木市）へ出場（入賞）
	1 1 月	救急救命士誕生（計 2 名となる）
平成 8 年	3 月	消防無線基地局更新（行方北部消防署）
	3 月	消防ポンプ自動車 1 台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	4 月	第 7 代消防長土子貞男鹿行広域事務局へ出向
	4 月	第 8 代消防長野島清司就任する。（鹿行広域事務局から転入）
	4 月	職員 1 名霞ヶ浦聖苑へ出向
	4 月	職員 1 名退職
	5 月	元鹿島北部消防署長島田福壽勲五等瑞宝章を受章する。

平成 9 年	6 月	広報車 3 台を更新し、各署へ配置する。
	7 月	行方北部消防署救助隊、第 2 5 回消防救助技術関東地区指導会（会場東京都）へ出場（入賞）
	1 1 月	指令車 1 台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	1 1 月	救急救命士誕生（計 3 名となる）
	1 2 月	職員 1 名退職
	3 月	職員 1 名退職
	3 月	第 8 代消防長野島清司退職する。
	4 月	第 9 代消防長茂木英雄就任する。
	4 月	職員定数 1 5 4 名となる。
	4 月	職員 8 名採用
	6 月	行方南部消防署空調設備更新
	7 月	職員 1 名採用
	8 月	社団法人日本損害保険協会から水槽付ポンプ自動車 1 台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	9 月	職員 1 名退職
	9 月	消防出張所整備計画決定（管理者会）
平成 1 0 年	1 0 月	行方北部消防署庁舎屋上防水工事実施
	1 2 月	指令車 3 台を更新し、消防本部、行方南部消防署及び行方北部消防署に配置する。
	3 月	防災航空隊職員派遣終了
	4 月	職員定数 1 8 6 名となる。
	4 月	救急救命士誕生（計 4 名となる。）
平成 1 1 年	6 月	鹿島北部消防署空調設備更新
	1 0 月	携帯電話等からの 1 1 9 番通報受付開始
	3 月	社団法人日本自動車工業会から高規格救急自動車 1 台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	4 月	職員 8 名採用
	4 月	救急救命士誕生（計 5 名となる。）
平成 1 2 年	6 月	職員 1 名退職
	9 月	安全研修会開催
	2 月	第 2 3 回全国消防職員意見発表茨城県大会開催（北浦町）
	3 月	化学消防ポンプ自動車 1 台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	3 月	水槽付消防ポンプ自動車 1 台を購入し、行方南部消防署に配置する。
	3 月	鹿島北部消防署大洋出張所竣工
	4 月	鹿島北部消防署大洋出張所業務開始
	4 月	職員 9 名採用
	4 月	救急救命士誕生（計 6 名となる。）
	5 月	行方北部消防署庁舎外壁塗装工事実施

平成 13 年	6 月	職員 1 名退職
	7 月	鹿島北部消防署救助隊第 29 回消防救助技術関東地区指導会（会場戸田市）へ出場
	10 月	広報車 1 台を購入し、鹿島北部消防署大洋出張所へ配置する。
	2 月	防災航空隊へ職員 1 名派遣
	3 月	高規格救急車 1 台を購入し、行方北部消防署へ配置する。
	3 月	行方北部消防署玉造出張所竣工
	3 月	職員 1 名退職
	4 月	行方北部消防署玉造出張所業務開始
	4 月	第 7 代消防本部次長塚本義美就任する。
	4 月	職員 10 名採用
	4 月	職員 1 名霞ヶ浦聖苑へ出向
	4 月	牛堀町と潮来町が合併し、潮来市となる。これによって、構成市町村は、1 市 4 町 2 村となる。
	4 月	救急救命士誕生（計 7 名となる。）
	5 月	広報車 1 台を購入し、行方北部消防署玉造出張所へ配置する。
	6 月	行方北部消防署空調設備更新
	10 月	救急救命士誕生（計 8 名となる。）
	12 月	職員 1 名退職
平成 14 年	1 月	潮来市在住の岩本氏より広報車 1 台が寄贈される。
	1 月	消防本部・鹿島北部消防署屋上防水工事実施
	2 月	救急自動車 1 台を更新し、行方北部消防署玉造出張所に配置する。
	2 月	広報車 1 台を購入し、鹿島北部消防署旭出張所へ配置する。
	2 月	鹿島北部消防署旭出張所竣工
	3 月	消防本部・鹿島北部消防署庁舎防水工事実施
	3 月	職員 1 名退職
	4 月	鹿島北部消防署旭出張所業務開始
	4 月	職員 11 名採用
	6 月	ワールドカップサッカー大会開催に伴う消防警戒実施
	7 月	消防緊急通信指令室整備計画着手
	7 月	鹿島北部消防署・行方北部消防署救助隊第 31 回消防救助技術関東地区指導会（会場千葉市）へ出場
	12 月	化学消防ポンプ自動車 1 台を更新し、行方北部消防署玉造出張所へ配置する。
平成 15 年	2 月	救急自動車 1 台を更新し、鹿島北部消防署大洋出張所へ配置する。
	2 月	広報車 1 台を購入し、行方北部消防署麻生出張所へ配置する。
	2 月	消防職員意見発表茨城県大会において、消防本部太田衛消防士長最優秀賞受賞。茨城県代表となる。
	2 月	行方北部消防署麻生出張所竣工

	3月	第7代消防本部次長塚本義美退職
	3月	職員2名退職
	3月	職員1名介護審査会事務所へ出向
	4月	職員定数204名となる。
	4月	行方北部消防署麻生出張所業務開始
	4月	消防本部・消防署に救急係を設ける。
	4月	第8代消防本部次長出村正雄就任する。
	4月	職員1名霞ヶ浦聖苑から転入
	4月	職員8名採用
	4月	救急救命士誕生(9名となる。)
	4月	メディカルコントロール協議会設立
	4月	消防職員意見発表関東大会(千葉市)において、消防本部太田衛消防士長最優秀賞受賞。関東支部代表となる。
	6月	消防職員意見発表全国大会(広島市)へ関東支部代表として消防本部太田衛消防士長出場。(入賞)
	6月	消防本部・鹿島北部消防署変電設備改修工事実施
	6月	消防本部空調設備・鹿島北部消防署給湯設備改修工事実施
	11月	救急救命士誕生(10名となる。)
	12月	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、鹿島北部消防署旭出張所へ配置する。
	12月	高規格救急自動車1台を更新し、鹿島北部消防署へ配置する。
平成16年	1月	消防緊急通信指令室増築工事完了
	2月	消防職員意見発表茨城県大会において、消防本部 関孝昭消防司令補優秀賞受賞
	2月	2B型救急自動車1台を更新し、行方南部消防署に配置する。
	3月	防災航空隊へ派遣中の職員1名、派遣期間終了
	3月	職員1名退職する。
	3月	第9代消防長 茂木英雄退職する。
	4月	第10代消防長 出村正雄就任する。
	4月	第9代消防本部次長 真家正隆就任する。
	4月	職員8名採用
	7月	職員1名退職
	11月	救急救命士1名誕生(11名となる)
平成17年	2月	日本損害保険協会から高規格救急車1台が寄贈され、行方北部消防署麻生出張所に配置する。
	2月	消防職員意見発表茨城県大会において、行方南部消防署 高崎英明消防士長優秀賞受賞。
	3月	職員1名退職
	4月	高機能消防指令センター総合整備事業の運用業務開始

平成18年	4月	職員4名採用
	4月	組織機構の改革・消防本部警防課に指令室を置き、3課10係となる。 消防署に管理課、第1課、第2課を設け、これによって、3課7係となる。 出張所に庶務係を設け、3係となる。
	4月	職員1名退職
	5月	救急救命士1名誕生(12名となる)
	9月	職員1名退職
	11月	広報車1台を更新し、消防本部に配置する。
	12月	救急救命士1名誕生(13名となる)
	12月	職員1名退職
	1月	職員1名退職
	1月	組合名称を「鹿行広域事務組合」に変更する。
	2月	組合名称変更に伴い消防本部・消防署の名称を変更する。 ・「鹿行広域事務組合消防本部」 ・「鹿行広域事務組合鉾田消防署」 ・「鹿行広域事務組合潮来消防署」 ・「鹿行広域事務組合行方消防署」
	3月	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、鉾田消防署大洋出張所へ配置する。
	3月	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、行方消防署麻生出張所へ配置する。
	3月	指揮車1台を更新し、消防本部に配置する。
	3月	職員1名退職
	3月	第9代消防本部次長 真家正隆退職する。
	4月	第10代消防長 出村正雄鹿行広域事務局へ出向
	4月	第11代消防長 (事務取扱) 管理者今泉和就任する。
	4月	第10代消防本部次長 野村喜義、小室守就任する。
	4月	職員1名霞ヶ浦聖苑へ出向
	4月	職員1名鹿行広域事務組合事務局へ出向
	4月	職員2名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4月	職員2名養護老人ホーム鹿行潮来荘から転入
	4月	職員6名採用
	4月	庁舎周辺に落雷があり通信指令装置に被害が出る。
	4月	第11代消防長 (事務取扱) 管理者今泉和退任する。
	5月	第12代消防長 (事務取扱) 管理者鬼沢保平就任する。
	5月	救急救命士1名誕生(14名となる)
	9月	職員1名退職
	9月	元参事兼警防課長宮本二郎 瑞宝双光章を受章する。
	10月	職員1名退職
	12月	消防ポンプ自動車(CDⅡ)1台を更新し、鉾田消防署へ配置する。
	12月	高規格救急車1台を更新し、鉾田消防署旭出張所へ配置する。
平成19年	1月	通信指令装置等の修繕工事が完了する。

	1 月	鉾田消防署のホース乾燥塔の補修工事が完了する。
	1 月	元消防司令補 松信正二 瑞宝単光章を受章する。
	3 月	潮来消防署の変電設備交換工事が完了する。
	3 月	職員 3 名退職
	4 月	職員 1 名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	4 月	職員 1 名審査会事務所から転入
	4 月	職員 5 名採用
	5 月	救急救命士が 4 名誕生（18 名となる。）
	6 月	広報車 1 台を消防本部から鉾田消防署へ配置替えする。
	6 月	広報車 1 台を更新し潮来消防署へ配置する。
	6 月	広報車 1 台を更新し行方消防署へ配置する。
	6 月	消防本部の広報車（防火号）を廃棄し、搬送連絡車を配置する。
	7 月	行方消防署の給湯設備改修工事が完了する。
	12 月	水槽付消防ポンプ自動車 I－B 型 1 台を麻生出張所に配置する。
	12 月	麻生出張所に配置していた化学消防ポンプ自動車を廃棄する。
	12 月	職員 1 名退職
	12 月	潮来消防署の大規模改修工事が完了する。
平成 20 年	2 月	潮来消防署の井戸ポンプ交換工事が完了する。
	3 月	行方消防署の変電設備交換工事が完了する。
	3 月	職員 3 名退職
	3 月	第 12 代消防長（事務取扱）管理者鬼沢保平退任する。
	4 月	第 13 代消防長に小室守就任する。
	4 月	職員 2 名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	4 月	職員 1 名茨城県防災航空室へ派遣（平成 22 年度末までの予定）
	4 月	職員 1 名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4 月	職員 7 名採用
	5 月	救急救命士が 3 名誕生（21 名となる。）
	9 月	職員 1 名退職
	10 月	防火衣（上下型）を個人貸与する。
	12 月	高規格救急車 1 台を更新し行方消防署へ配置する。
	12 月	高規格救急車 1 台を更新し潮来消防署へ配置する。
	12 月	職員 1 名退職
平成 21 年	3 月	職員 5 名退職
	4 月	職員 9 名採用
	5 月	救急救命士が 2 名誕生（23 名となる。）
	5 月	事務連絡車を購入し消防本部に配置する。
	12 月	消防本部浄化槽設備改良工事が完了する。
平成 22 年	2 月	消防ポンプ自動車 1 台を更新し行方消防署に配置する。
	3 月	職員 8 名が退職する。
	3 月	第 10 代消防本部次長、野村喜義退職する。

平成 22 年	4 月	第 11 代消防本部次長、石津啓司就任する。
	4 月	職員 1 名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4 月	職員 1 名鹿行広域事務組合事務局へ転出
	4 月	職員 8 名採用（採用者内に救急救命士 1 名）
	5 月	救急救命士が 2 名誕生（26 名となる。）
	10 月	職員 1 名退職
	12 月	職員 1 名退職
平成 23 年	1 月	高規格救急車 1 台を更新し、行方消防署玉造出張所へ配置する。
	3 月	一般社団法人日本自動車工業会から高規格救急自動車 1 台が寄贈され、鉾田消防署大洋出張所へ配置する。
	3 月	第 13 代消防長 小室 守退任する。
	3 月	職員 3 名退職（退職者内に救急救命士 1 名）
	4 月	第 14 代消防長 石津 啓司就任する。
	4 月	第 12 代消防本部次長、立原 和夫就任する。
	4 月	職員 6 名採用（採用者内に救急救命士 1 名）
	4 月	茨城県生活環境部消防防災課へ 1 名派遣する。
	4 月	職員 1 名鹿行広域事務組合事務局から転入
	4 月	職員 1 名鹿行広域事務組合事務局へ転出
	4 月	週 38.75 時間勤務態勢実施する。
	4 月	茨城県防災航空室派遣終了
	5 月	救急救命士が 2 名誕生（28 名となる。）
	7 月	職員 1 名退職
	8 月	職員 1 名退職
	12 月	消防ポンプ自動車（CDⅡ）1 台を更新し、潮来消防署へ配置する。
平成 24 年	3 月	第 14 代消防長 石津 啓司退任する。
	3 月	第 12 代消防本部次長、立原 和夫退任する。
	3 月	職員 6 名退職
	4 月	第 15 代消防長 久保木 博就任する。
	4 月	第 13 代消防本部次長、市村 茂夫就任する。
	4 月	職員 8 名採用
	4 月	元消防長 土子 貞男 瑞宝双光章を受章する。
	5 月	救急救命士が 2 名誕生（30 名となる。）
	8 月	職員 1 名退職
	9 月	防災功労者内閣総理大臣表彰を当消防本部が受賞する。
	10 月	資機材搬送車 1 台を更新し、行方消防署へ配置する。
	12 月	高規格救急車 1 台を更新し、鉾田消防署へ配置する。
	12 月	職員 1 名退職
平成 25 年	3 月	第 15 代消防長 久保木 博退任する。
	3 月	職員 4 名退職

3 月	茨城県生活環境部消防安全課への派遣終了。
4 月	第 1 6 代消防長 市村 茂夫就任する。
4 月	第 1 4 代消防本部次長、千野根 保就任する。
4 月	職員 1 1 名採用
4 月	茨城県立消防学校へ 1 名講師派遣する。
4 月	救急救命士が 4 名誕生（3 4 名となる。）
4 月	職員 1 名退職
4 月	元消防司令長 伊勢山 正 瑞宝単光章を受章する。